

健康保険管理公団 一山病院

サクラシステムプランニング(株) 東 竜一郎

サクラシステムプランニング(株) 工藤 正一

サクラインターナショナル(株) 船谷 毅

1. 視察データ

視察日 2010年5月19日(水)

所在地 京畿道高陽市一山東場白石洞(ソウル西北部地域)

対応者 副院長、医長、事務長、企画部長、研究部長ほか病院スタッフ

2. 視察先の概要

良質の医療と親切なサービスをもとに国民の保健向上と健康保険モデル病院としての役割を遂行のため、地下5階～地上13階、病床数745床の規模で、先端医療設備および施設を取り揃え、2000年3月3日に開院した国民健康保険公団が運営する国内唯一の保険者直営病院である。DPC政策をとっている。



3. 視察目的とテーマ

国民健康保険で運営されている唯一の病院であり、韓国における一般的な病院である。韓国の一般的な病院では、購買管理、物流管理がどのように実施されているかの実態を視察することを目的とした。

4. 視察または説明内容

4.1) ビデオによる病院紹介

4.2) PPTによる一山病院の紹介

4.2)-1 韓国の社会保険運営状況

社会保障システムは、社会保険、公共支援、社会福祉の3つに大きく分かれる。

社会保険：健康保険、国民年金、産災保険等

公共支援：生活保護、医療支援

社会福祉：老人、子供、障害者、女性

4.2)-2 設立目的

「保険者直営病院として、加入者の医療の利用便宜を図り、地域の保健医療の需要を満たすと共に、臨床医学の研究および健康保険の全体の様々な調査分析を通じて、国民の保健医療水準の向上と医療や健康保険制度の発展に寄与すること」
健康保険モデル病院／公共医療中心病院であるために下記を実施している。

政策参考資料の産出：健康保険数値の評価、適正医療水準提示

適正医療提供：療養給興基準遵守、標準診療指針開発、患者中心の病院運営

公共医療サービス：政府保健医療事業、封民医療支援事業推進、医療協力体系構築

4.2)-3 勤務人員

- ・ 専門医 145 名、専攻医 173 名、看護職 533 名、技術技能職・事務職など 791 名、
総数 1642 名

4.2)-4 延世大学校医科大学病院との協力病院

- ・ 人材および技術協力で安定的な国内最優秀医療チームを構成している。
- ・ 任用状況 教授 33 名、副教授 39 名、助教授 47 名、総数 119 名

4.2)-5 診療科目 24 診療科：内科、整形外科、皮膚科、精神科、小児青少年科、産婦人科、 歯科、放射線腫瘍学科など

4.2)-6 主要設備

- ・ 物流搬送設備
 - AIR Shooter 4 手術室などの検体搬送
 - ATS(Auto Track System)Station 45 カルテなどの小型物流（自走台車）
 - Wagon Station 28 薬品などの中大型物流
 - Dumb Waiter 3 大型物流
- ・ 自動制御システム
 - 恒温、恒湿、電力及び照明制御など
- ・ 医療情報システム
 - OCS、PACS、D/W、EDMS など
- ・ 無停電システム
 - 医療用、電算用及びビル自動化用など
- ・ 医療機器
 - PET-CT、3.0T MRI、64ch-CT、ESWL など最新医療設備 767 種 1882 台

4.2)-7 患者診療現況

- ・ 1,065,684 名(2009) 毎年 10%以上の患者数増加が見込まれている。

4.2)-8 健康検診センター

- ・ 46,528 名(2009) 健康検診センターは、毎年大きな幅で患者数が上昇している。

4.2)-9 政府参考資料産出基盤構築

- ・ 政策参考資料算出基盤システム：OCS、PACS、D/W などがある。
- ・ ABC 原価分析システム構築(2004)は、診療科別、医師別、行為別が導入されている。

4.2)-10 適正診療指針開発

- ・ 標準診療指針、臨床質指標を開発している。
- ・ 臨床質指標：手術後敗血症発生など 21 個指標開発した。

4.2)-11 開放病院運営

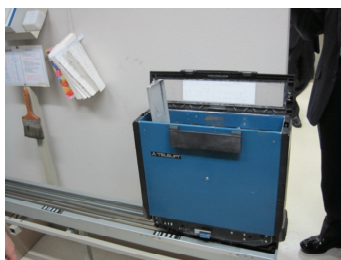
- ・ 地域開業医に人、機器、施設を開放して、医療サービスの質向上及び医療資源活用の極大化追及している。
- ・ 開放病院師範機能指定（保健福祉部）

4.2)-12 診療協力センター運営

- ・病院医院からの診療依頼、回送などが円滑に成り立つようするための医療協力ネットワーク管理センターを運営している。
- ・医療資源活用度増加と医療機関間技能的役割分担で発展を図っている。
- ・2010年5月現在 116個病院が協力病医院として運営中

4.2)-11 院内実地視察

- ・視察場所 病棟、搬送ステーション兼カートプール、SPD倉庫、薬剤部
- ・物流管理
 - ・患者の診療材料、OP材料は、オーダーリングで請求するとSPDから払出される。
 - ・供給はワゴン、エアシュータで行っている。エアシュータは臨時用とのこと。
 - ・処方箋集計請求と払い出された集計は合うので無駄がないとのことであった。
 - ・搬送は全て自動化している。
 - ・センサーが付いているので、SPD倉庫からワゴンで各々の病棟へ搬送できる。
 - ・基本的に午前がSPD→病棟のワゴン搬送、午後は病棟→SPDのワゴン搬送に当てられ、ワゴン交換されている。
 - ・使用頻度、使用量によって交換タイミングを違えているとのこと。
 - ・ワゴンの中を残数チェックして補充する方法であった。



自走台車



搬送ステーション



診療材料ワゴン



診療材料倉庫



- ・薬剤部は調剤室にて患者別にラベルを出力している。患者別にカゴに入れて作業している。
- ・薬品もワゴンで供給されており、調剤薬は病棟の病室No.とベッドNo.による患者別と思われる与薬車となっていた。
- ・RFIDが付いた薬品があったが利用していないとのこと。

- ・SPD 倉庫、薬剤部ともに、ワゴンが 10 数台置かれており、倉庫も比較的広く、面積としては、かなり広いスペースとなっている。調剤室のみ狭く雑然としていた。



調剤室



薬品ワゴン

・ 購買管理

- ・ 物流納品業者は、韓国の法で 100 床以上の病院は、薬品について卸業者を通すことになっているとのこと。
- ・ 薬品業者：40 社 診療材料業者：300 社 4000 品目（メーカーも含まれる）
- ・ 医療機器は、ケースバイケースで対応している。
- ・ 医薬品と診療材料は、毎年 1 回公開入札を行っている。
- ・ この病院は公立病院であり、毎年価格が決められるので会社数が増えるとのこと。
- ・ OP 材料の 80%は輸入品であり、米国製のものがほとんどである。理由としては韓国の医師は、米国によく行くため使い慣れた物品を採用している経緯がある。

(5)まとめ

院内に入って驚いたのは、駅のように広く、高く、明るいエントランスであった。大災害時にはエントランスを病棟にできるよう O₂ 等の設備が壁にあるとのこと。

物流については少し前の日本の病院のように思える。自動搬送を前面に出しており、日本ではあまり利用されないワゴン搬送機による交換方式が主となっていた。



エントランス



エントランス天井